

やつかいな 相似

竹川圭文

奮発してフレンチの店を予約したのに、会話がまったく弾まない。ニコリとも笑わない。気分がささくれ立ってくる。コースはまだ、中盤戦なのに。

まるで履き下ろして初めて気づく、合わない靴だ。

多少の違和感はそのうち消えるだろうと高を括っていたら、予想は大きい裏切られ、踝や爪先、足裏が痛くなってくる。気づいた時には手遅れで、裸足になりたい衝動と必死に戦いながら、帰宅の途につく。

ほらね。

閑話休題。

外反母趾など足のトラブルは女性特有と思われているが、実際は違う。

靴遊びをなおざりにすれば男だって

その苦痛を免れることはできない。

この点できわめて優れた選択肢が、

読んだ。が、よほどイレギュラーな

足ならともかく、老練なスタッフの

接客の下、きちんと試し履きをすれば既製靴で事足りる。

醍醐味は自分だけの一足という精



“サン クリスピン”は こんなブランド

長年、ヨーロッパ各地で高度な手縫い靴の技術を磨いてきた靴職人、マイケル・ローリックが従兄弟のフィリップ・カールと、2003年に、本格始動した靴ブランド。本社のあるウィーンの工房では、デザインから木型づくりまでを担当。生産は、手工芸の伝統技術が今なお息づくルーマニアの工房で、最高級の革を使ってつくられている。そんな彼らのこだわりのビスポーク（誂え）、フレタポルテ（既製）の靴は、現在、イタリア、ドイツ、ロシア、日本で購入することが可能。

たけがわけい、メンズ誌を中心に活動するファッションエディター。近著に「紳士 靴を遊ぶ」（光文社新書）。ウェブマガジン「shoe」（<http://www.boq.jp>）にて「shoe 人十色」を連載中。

友好的関係はそれなりに気を配って初めて成立する。日々のケアを怠らず、ソールが減れば修理に出す。たとえ抜群の相性だったとしても、ぞんざいに扱っていけば手酷いしつべ返しを食らう。やっばり似ている。

神的充足感にある。あるいは手仕事の最高峰を知る悦楽もあるだろう。古典的な製法に則るその靴は履き込めば履き込んだだけ、馴染んでいく。ヘントレーを盗まれたオーナーが「車はやるから、トランクに入れていたビスポークシューズ（英語で誂え靴の意）だけは返してくれ」と広告を打ったという、靴好きには有名なエピソードがあるが、誂えた靴は大の男さえ無分別にしてしまっ。

友好的関係はそれなりに気を配って初めて成立する。日々のケアを怠らず、ソールが減れば修理に出す。

たとえ抜群の相性だったとしても、ぞんざいに扱っていけば手酷いしつべ返しを食らう。

やっばり似ている。

神的充足感にある。あるいは手仕事の最高峰を知る悦楽もあるだろう。

古典的な製法に則るその靴は履き込めば履き込んだだけ、馴染んでいく。

ヘントレーを盗まれたオーナーが「車はやるから、トランクに入れていたビスポークシューズ（英語で誂え靴の意）だけは返してくれ」と広告を打ったという、靴好きには有名なエピソードがあるが、誂えた靴は大の男さえ無分別にしてしまっ。

友好的関係はそれなりに気を配って初めて成立する。日々のケアを怠らず、ソールが減れば修理に出す。

たとえ抜群の相性だったとしても、ぞんざいに扱っていけば手酷いしつべ返しを食らう。

やっばり似ている。

神的充足感にある。あるいは手仕事の最高峰を知る悦楽もあるだろう。

古典的な製法に則るその靴は履き込めば履き込んだだけ、馴染んでいく。

ヘントレーを盗まれたオーナーが「車はやるから、トランクに入れていたビスポークシューズ（英語で誂え靴の意）だけは返してくれ」と広告を打ったという、靴好きには有名なエピソードがあるが、誂えた靴は大の男さえ無分別にしてしまっ。

友好的関係はそれなりに気を配って初めて成立する。日々のケアを怠らず、ソールが減れば修理に出す。

たとえ抜群の相性だったとしても、ぞんざいに扱っていけば手酷いしつべ返しを食らう。

やっばり似ている。

神的充足感にある。あるいは手仕事の最高峰を知る悦楽もあるだろう。

古典的な製法に則るその靴は履き込めば履き込んだだけ、馴染んでいく。

ヘントレーを盗まれたオーナーが「車はやるから、トランクに入れていたビスポークシューズ（英語で誂え靴の意）だけは返してくれ」と広告を打ったという、靴好きには有名なエピソードがあるが、誂えた靴は大の男さえ無分別にしてしまっ。

友好的関係はそれなりに気を配って初めて成立する。日々のケアを怠らず、ソールが減れば修理に出す。

たとえ抜群の相性だったとしても、ぞんざいに扱っていけば手酷いしつべ返しを食らう。

やっばり似ている。

神的充足感にある。あるいは手仕事の最高峰を知る悦楽もあるだろう。

古典的な製法に則るその靴は履き込めば履き込んだだけ、馴染んでいく。

ヘントレーを盗まれたオーナーが「車はやるから、トランクに入れていたビスポークシューズ（英語で誂え靴の意）だけは返してくれ」と広告を打ったという、靴好きには有名なエピソードがあるが、誂えた靴は大の男さえ無分別にしてしまっ。

友好的関係はそれなりに気を配って初めて成立する。日々のケアを怠らず、ソールが減れば修理に出す。



Saint Crispin's

あなたは、惚れ惚れする靴を何足お持ちだろうか……。
“靴職人の守護聖人”という名前をもつ「サン クリスピン」の靴は、履き心地さえも格段に変えてしまう、伝統的な手工芸でつくられた希少性の高い逸品。
9月3日～5日、デザイナーが来日し、いよいよフルオーダーの受注がスタート。納期は約1年後（価格は、45万円～）。この機会に、自分仕様の一生モノを手に入れてみては。
右 / 黒ストレートチップ17万4300円
左 / 茶ウイングチップ17万4300円
※すべて税込みです

問い合わせ先:

ユニテッドアローズ 原宿本店 メンズ館 TEL:03-3479-8180

ザ ソブリンハウス TEL:03-6212-2150

撮影・小寺浩之 構成・HATSU デザイン・武藤一将 撮影協力・ネイチャーキットカンパニー